

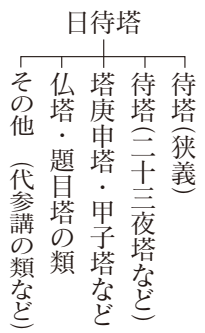
日待塔・月待塔について

昭和三十二年
事務局長 島田 民夫

日待とは日の出を待つ意であるが、江戸時代から「待」は「祭」だとする説がある。その当否はさておき、日待ちは本来人々が一定の日に決められた場所に集まり、夜もすがら忌みごもりなどして、日の出を拝した行事であった。

この日待ちの起原について明快な説明は困難だが、あるいは古代の日奉部などにも関係ある行事かもしれない。ともあれ日待は、古代の信仰に根ざした古い習俗と思われる。後世の庚申待や巳待・子待などや山岳信仰の代参講の待行事などはこの日待の講的組織や徹夜の順序・方法を受け継ぎ、その形式ならって行われた習俗と考えられる。

庚申待を庚申日待、巳待を弁天日待、榛名代参講の講行事を榛名日待と呼称しているのは、日待が庚申待巳待などより早くから実施されてきた習俗であることを証明するものである。ともあれ日待は夜を徹する行事を意味している。このような基本的立場から、日待関係の石造物を分類し、表示すると次のようになる。



月待塔は、特定の月齢の夜に集まり、月待の行事を行った講中で、供養のしるしに造立した塔である。

月待塔で最も一般的なのが二十三夜塔である。二十三夜塔は全国的に普及している。なお、十三夜から二十九夜までのほとんどの各夜の月待塔がみられる。

なかでも比較的多く見当たっているのは十六、十八、十九、二十二、二十三、二十六夜塔である。ただし二十三夜塔が全国的に分布しているのに比べ、その他のものは地域的に偏りがある。また特に留意したいのは念仏塔の関連である。例えば十六夜・十八夜・十九夜などの塔には単に〇〇夜とか〇〇夜待の塔もあるが〇〇夜念仏塔とか〇〇夜念仏供養塔と刻むものも多い。したがって月待塔と念仏塔の区別は含めてみる。「日本石仏事典・

第二版 庚申懇話会編から



地域包括支援センターだより

実践！介護予防みんなで楽しくらくらく筋トレ体操！

今月は『プリティーセブン』を紹介します。

- 場所 森下中組住民センター
- 日時 毎週水曜日午後7:30～

☆ここが私たちの魅力☆

- 村内にある「ふれあいいきいきサロン」の中でも参加者の年齢層が若く、50歳から60歳代で構成されています。「若いうちからの筋トレは体に効く」と聞いたことをきっかけに、地域の気の合う同世代の仲間とサロンを立ち上げました。今年で6年目になります。
- 参加している皆さんは日中に働いているため、サロン

は夜に開催しています。仕事や家事の都合で参加できる時間が限られても、自分のペースで取り組めるのが「プリティーセブン」の魅力の1つです。
○普段のサロンの雰囲気は和気あいあいと、おしゃべりを楽しみながら筋トレ体操を2回行っています。それに加えて、おのおのが健康にいいトレーニングや食事などの話を収集し共有しています。

みんなの声

- ・主体的にそれぞれが活動できる・自由参加だから負担なく取り組める・たくさんおしゃべりしてストレス発散できる・健康に関する話を出来るのが楽しい など



ちょっときついトレーニングにチャレンジ



地域包括支援センターはサロンを応援しています！